



小国中学校 学校だより



令和3年度6号

文責 狹間



「 本年もよろしくお願いします 」

2022年（令和4年）、新しい一年が始まりました。昨年、一昨年と新型コロナウイルス感染症に大きく左右されましたが、本校としてもオンライン授業の実現等、そういう状況にも少しずつ対応する力を付けることが出来たことは成長の証ではないかと思っています。これからの見通しについても定かではありませんが、それはいつの時代も同じこと。常にピンチをチャンスに変える気概を持ち、その時々で出来ることをひとつずつ積み重ねる本校でありたいと思っています。



昨年末には小国町社会福祉協議会のご協力の下、小中学校PTA役員の皆様方の全面的なバックアップにより小中学校正門に門松を飾ることが出来ました。本校がこの門松を飾る（作る）ようになって8年目となりますが、今では本校生徒会本部の新旧交代の儀式の一つにもなっています。保護者の皆さんや地域の方々とともに生徒の笑顔溢れる学校を作っていきたいとあらためて誓う新年です。本年もどうぞよろしくお願い致します。



「 たゆまぬ努力の先に、夢は広がる 」

12月4日・5日に滋賀県で開催されたホッケー競技 U-15 オールスター戦に、本校ホッケー部の佐藤一麦さん、佐藤聖那さん、宮崎陽菜さんが出場しました。例年であればオーストラリアに遠征し、海外の同年代の代表チームと対戦していたのですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のために中止となり、その代替措置として、U-15の代表選手同士での試合でした。そのチームのコーチとして招聘された、本校の石川講師ともども貴重な経験の機会となったようです。



【 渡邉町長への表敬訪問の一コマ 】

（※三人が着用しているのは日本代表ユニフォーム）

同様に、12月11日・12日に栃木県で開催された「第20回日本バドミントンジュニアグランプリ2021」に9年生の佐藤ゆめさんが出場しました。誰もが出場できる大会ではなく、これまでの各種大会等の実績から、熊本県バドミントン協会の推薦があつての出場でした。当然ながら出場者全員が各都道府県の推薦を得ての参加者ということで、ハイレベルの試合ばかりだったそうです。大会が終わり小国町に帰り着いたのは日曜日の深夜（やがて曜日が変わる頃）だったとのこと。それでも月曜日の朝には通常通りに登校していた佐藤さんでした。今夏開催された東京オリンピックのホッケー競技には本校卒業生の北里謙治選手や穴井善博コーチが日本代表として出場されましたが、今回選出された四人はもちろんのこと、他の部活動・クラブ生徒にとっても、2024年のパリ大会や、2028年のロサンゼルス大会へと夢は広がります。私も楽しみです。



【校内で撮影】

「 つなぐ、つながる 」

12月17日（金）、校内駅伝大会を実施しました。当日は前日の雨の影響でグラウンドが使えないという状況で、急きょ、スタートとゴール地点を正門前に変更しての実施でした。また、時折、雪が舞う中での開催でしたが、生徒のはつらつとした姿に、気持ちの良い時間を過ごすことが出来ました。この大会を迎えるにあたっては、各学級で率先して長い距離に挑戦してくれる生徒が出てきて、各チームが作られていきました。当日もそれぞれの生徒が得意、不得



【元気いっぱいスタート】

意に関係なく全力で挑んでくれました。二学期、本校では様々な行事に取り組みましたが、それは全校生徒とご家庭の皆様方のご協力あってのことです。これからもコロナ禍ではあっても、精一杯の対策を図りながら、可能な形で実施していきます。あらためてよろしくお願い致します。



【 あたたかな応援団 】



【 タスキをつなぐ、思いをつなぐ 】

「 思いを伝える 」

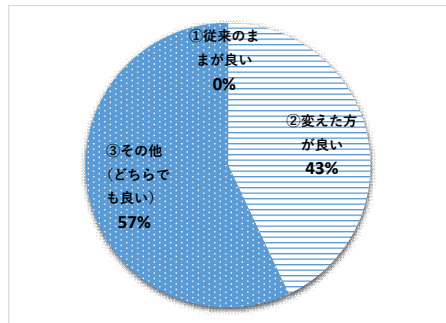
12月10日（小学校保護者会）と17日（中学校保護者会）に、本校生徒会本部の生徒が今後の本校制服について自分たちの思いを伝える機会を持たせていただきました。このことについては、先日、「制服アンケート」の結果をご紹介（校長室通信第20号）したところですが、本校生徒がこれまでに学習してきたSDGs学習での学びと、その過程として「制服を見直したい」というご提案でした。もちろん、生徒と本校のゴールはそこではなく、「全ての生徒にとって過ごしやすい、学びやすい環境を作る」というところにあります。本年度、生徒会本部が中心となって校則の見直しを図っており、それは次の生徒会にも引き継がれていきます。このことは「誰一人とり残さない」という、SDGsの基本姿勢に基づくものです。保護者会でもご説明させていただいたことですが、アンケートの結果を受けて、正式に制服についての検討委員会を立ち上げさせていただきます。まずは1月に本校PTA役員さんや小学校PTA役員さん方にもご協力いただき、「制服を変えるのか、現状のままでいくのか」というところから話し合わせていただきます。その詳細につきましては、またあらためてお知らせ致します。（※以下にアンケート集計結果を掲載します）



【小学校保護者会での説明の様子】

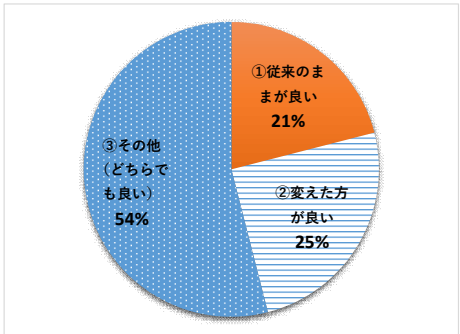
本年度、生徒会本部が中心となって校則の見直しを図っており、それは次の生徒会にも引き継がれていきます。このことは「誰一人とり残さない」という、SDGsの基本姿勢に基づくものです。保護者会でもご説明させていただいたことですが、アンケートの結果を受けて、正式に制服についての検討委員会を立ち上げさせていただきます。まずは1月に本校PTA役員さんや小学校PTA役員さん方にもご協力いただき、「制服を変えるのか、現状のままでいくのか」というところから話し合わせていただきます。その詳細につきましては、またあらためてお知らせ致します。（※以下にアンケート集計結果を掲載します）

※制服に関するアンケート集計結果



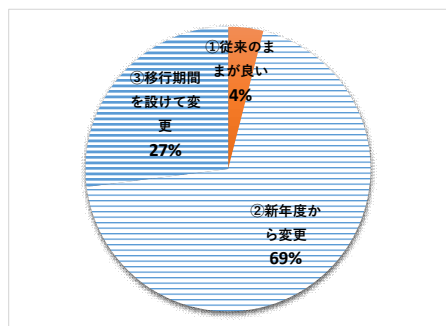
【中学生】

従来のままが良い 0 %
変えた方が良い 43 %
どちらでも良い 57 %



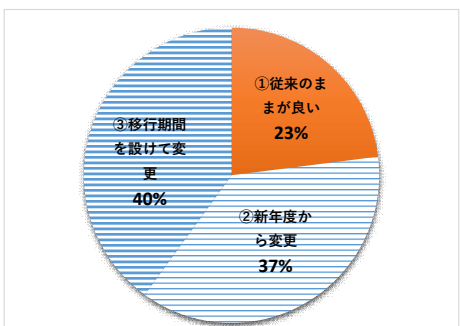
【中学校保護者】

従来のままが良い 21 %
変えた方が良い 25 %
どちらでも良い 54 %



【小学5・6年生】

従来のままが良い 4 %
新年度から変更 69 %
移行期間を設けて変更 27 %



【小学校保護者】

従来のままが良い 23 %
新年度から変更 37 %
移行期間を設けて変更 40 %

上段グラフが最初に意見を尋ねた中学生と中学校保護者さんの集計結果です。中学校保護者さんの「従来のままが良い」というご意見の理由として多かったのが、兄姉の制服を着せたいからというお考えでした。また、中学生・保護者さんの「どちらでも良い」という意見の多くが「（対象となる）生徒の意見を尊重してほしい」というお考えからでした。この結果を受けて、「従来のままが良い」、「変えた方が良い」、「どちらでも良い」という回答をより詳細に確認するために、「兄姉の制服を活用するために移行期間を設けて変更する」、「新年度から変更」という選択肢に追加変更し、仮に制服を新しくするとした場合、その対象となる現在の小学生と、その保護者さんのご意見が、下段グラフです。小学生と保護者さん共々、「従来のままが良い」というご意見の理由の多くが「兄、姉の制服を着たい（着せたい）から」というお考えでした。また、「新年度から変更」や「移行期間を設けて変更」というご意見のなかには、改定は賛成だが素材やデザインの決定についてもう少し検討時間が必要なのではという趣旨のご意見等もありました。